

メタゾア(後生動物)、ゲナリストマタ(有顎動物)、アクラニア(無頭類)、クラニオタ(有頭類)、アムニオタ(有羊膜類)等で、是等は、皆、今日、現に學問界に使用されて居るもの計である。此等の中で殊に一言述べて置くべきことは、系統發生と個體發生との關係で、之をヘッケル先生は、生物發生の原料とせられ、『個體の發生は系統の發生を短縮したものである』と云うて居られる。此の關係を初めに發見せられたのは、實は先生ではなく、先生の先輩であつたフリッツ・ミューレルといふ先生であつて、ヘッケル先生は之を敷衍して生物界共通の法則であることを證明せられたのである。

ヘッケル先生を紹介するのに、先生が純粹の生物學上になされた事のみを述べたばかりでは、先生を半分知らせたに過ぎ

ない。先生は單に純粹の生物學者であると謂ふばかりではなく。又、大辯舌家であり、大文章家であり、詩人であり、美術家であり、又一種の哲學者である。イエーナ大學に於ける先生の講義の有名であることは、一度之を聽いた者の等しく認むる所で、先生が夏期に讀まれる『自然創造論』及び『人類の發生史』等には全世界の學者を集めると謂ふを得べく、又、先生が各種の學會等に於て爲される講演は常に傍聽者をして啞然たらしめ、反對の意見を懷く者でも知らず識らず先生の說に引き込まれると謂ふことである。又、先生の文章の流暢なることは其の辯舌の爽かなると同じく、『人類の發生史』の如き大部のものと同、一度之を讀み始むるときは、時の移るを忘れ、中途にて止めることの出來ない程である。又、先生の著述が想像の豊

富なことも普く人の知る所で、殊に『印度旅行日誌』、『錫蘭島のアダム』の如きものはゲーテの詩を讀むが如き感がある。尙、先生の美術家であることは、『自然に於ける美形』を見て知るべく、先生の哲學的思想は『モニスム』と『パピスム』、『モニスム』と『自然法則』、『宇宙の謎』、『生命の不可思議』等の著書に於て十分に發表されて居る。

此のやうに、先生は諸方面に亙つて活動して居られるが、先生は體格、容貌共に非常に立派であるのみならず、又、先生の態度、應接等の實にジントルマン然たる所は、獨逸人には稀に見る所のものであるとは、英國の學者から常に聴くことである。ケンブリッジのガドー先生がヘッケル先生の演話振を記載して、"His winning personality and fascinating eloquence, combined with

a clear and concise delivery, have gained the enthusiastic admiration of many a student who went so the quiet University-town in order to learn with his own ears and eyes,"

と云うて居るのは誠に適評であると思はれる。

實に先生は何時も清々とした様子で、其の立派な温顔を以て人に接し、談話も眞に縦板に水を流すといふ調子であるので、先生の温容に接する者は、何人も先生を敬慕するの念を生ぜざる者はないが、先生が公會に於て、又は筆を執つて他の學說を攻撃するときは、其の激烈なること恰も別人の如き觀を呈するのである。嘗てテービンゲンに一老婦人があつたが、此の婦人は或席でヘッケル先生と知り合になり、其の後、先生が宗教の攻撃文を見て、其の眞にヘッケル先生の筆になつたもので

あるやを疑ひ、あのやうな温厚な君子が此のやうな毒筆を物せられたか」と言うて驚いたといふ。

此の事は實に先生の爲めに惜む所のもので、自分と異なつた説を有する人に對しては、時に依ると先生の攻撃は學問以外に出でて、人身の攻撃をもするやうになる。

併しながら、先生の學問は何れも皆、生物學から考へ出されたもので、先生は今言つた種々な方面に働いた計りてなく、又先生は生物學から一種の道德を考案せられた。これは先生のモニスムスの説で、宇宙に神と自然といふやうな二箇の異なつたものがあるといふのは間違で、宇宙にある森羅萬象は皆、自然的原因結果で、決して神の意志などといふやうなものではない。人間も初めから神が造つたのではなく、自然の

法則に依つて、動物から段々と發生進化して來たものである。それ故に精神と肉體とは別物ではなく、同一の物である。であるから又、道德は自然の上から教へられたものではなく、社會生存の必要から起つて來るものである。ヘッケル先生は一八六六年頃以來、此のモニスムスの道德を盛んに主唱せられ、獨逸、亞米利加合衆國などには之を賛成する者は頗る多く、又先生をイーナのポープと悪口する者もあるが、伯林邊では先生は、此のモニスムスの爲めに大に嫌はれて居るといふ。又、此のモニスムス説を唱へると同時に、耶蘇教を攻撃すること甚だ激烈で、其の爲めに先生は諸方で衝突をする。併しこれが又、先生の先生たる所以で、今までデュアリスティックに考へて居たことが、何にもかも皆モニスティックとなるのを見て、此の宇

宙は皆モニスチックなもので、決してデュアリスティックなものではないのである。水は水素と酸素とから出来て居るものがあるが、茲に水精といふやうなものがあつて、此の水の精の爲めに水が存在して居るのであると思つたではないか？原形質の成分は解つたが、是が實驗室で出来ないのは原形質の成分の他に生命といふ不可思議なものが之を造つて居るのではないか？と今ではまだ主唱する人があるが、誰か知らん、今後、此の生命といふものを酸素と水素とに於ける水の精と同様なものにならんとは!?!

大日本文明協會からヘッケル先生の『生命の不可思議』の跋文を書いて呉れとの依頼を受けたるが、『生命の不可思議』は此の書を読めば解ることであるから、茲に其の原著者のヘッケル先

生とは如何なる人であるかを一寸紹介して跋文に代へることにしたのである。

大正三年十二月

理學博士 石川千代松



一元的倫理學(Monistische Ethik)……………上二四一六  
 (理學的道德)……………上二四一七  
 一元的歴史(Monistische Historie)……………上二四一八  
 一元論(Monismus)……………上二四一九  
 (と生物發生學)……………上二四二〇  
 (の調和)……………上二四二一  
 一元論より觀たる三位一體(第十九表)……………上二四二二  
 イデオプラズム(Ideoplasma Hypo- these, の臆説)……………上二四二三  
 遺傳(Progressive Vererbung 漸進的)……………上二四二四  
 遺傳質(Erbmasse)……………上二四二五  
 胃腸管系統(腔腸類の)……………上二四二六  
 一家(Monocete)……………上二四二七  
 『一般形態學』(Generelle Morpho- logie, ベッケルの著)……………上二四二八  
 宇宙(兩箇の)……………上二四二九  
 宇宙の謎(生命の起原と)……………上二四三〇  
 運動(Bewegung, 宇宙の方向)……………上二四三一  
 (混合せる)……………上二四三二  
 (原生動物の)……………上二四三三  
 (生活の方向)……………上二四三四  
 (生長)……………上二四三五  
 運動器官(Bewegungs-Organ, 脊椎動物の)……………上二四三六

運動器官(筋肢動物の)……………上二四三六  
 (人類的)……………上二四三七  
 (受働的)……………上二四三八  
 (棘皮動物の)……………上二四三九  
 (能動的)……………上二四四〇  
 (哺乳動物の)……………上二四四一  
 營養(Ernahrung)……………上二四四二  
 (維管束植物の)……………上二四四三  
 (及び物質代謝)……………上二四四四  
 (原生動物の)……………上二四四五  
 (細菌の)……………上二四四六  
 (體腔類の)……………上二四四七  
 (の官能)……………上二四四八  
 (分生藻の)……………上二四四九  
 (有組織植物の)……………上二四五〇  
 (有組織動物の)……………上二四五一  
 エクトゲネーゼ(Ectogenese, プラーチの命名せる)……………上二四五二  
 エヌテーテン(Aestheton, と思想機 關)……………上二四五三  
 (とフロネーションとの對抗作用)……………上二四五四  
 エネルギー(Energie)……………上二四五五  
 (と感覺)……………上二四五六  
 (と物質)……………上二四五七  
 エネルギーの法則(Das Energie- Gesetz, の建設)……………上二五五八

エルゴロギー(Ergologie)……………上二五五九  
 エンゲルマン(Wilhelm Engelmann, 化學的走性)……………上二五六〇  
 (水静力學的運動に就して)……………上二五六一  
 厭世觀(Pessimismus)……………上二五六二  
 エンテラーゴ(Entelechie)……………上二五六三  
 エンペドクレス(Empedocles, 物體の成生に就して)……………上二五六四  
 應用科學(Angewandte Wissenschaft)……………上二五六五  
 應用(實際的)科學の主流の一覽(第十二表)……………上二五六六  
 オストワルト(Ostwald, 記憶に就して)……………上二五六七  
 (神經エネルギーに就して)……………上二五六八  
 (生活運動に就して)……………上二五六九  
 (温度の限界)……………上二五七〇

力行

解放(Auslösung, 刺激に依る)……………上二五七二  
 解剖學(Anatomie)……………上二五七三  
 核液(Karyolymphe)……………上二五七四  
 核質(Karyoplasma)……………上二五七五  
 (と細胞質)……………上二五七六  
 核點(Nucleolus)……………上二五七七  
 核膜(Karyothek, と核液)……………上二五七八

カッウィッツ(Max Kassowitz, 遺傳質に就して)……………上二五七九  
 (原生の過程に就して)……………上二五八〇  
 『彼の世』(Jenseits)……………上二五八一  
 カノンの精神(Kanonischer Geist)……………上二五八二  
 カノン法(Kanonisches Recht)……………上二五八三  
 感覺(Fühlung, と感覺)……………上二五八四  
 感覺(Empfindung)……………上二五八五  
 (意識せる)……………上二五八六  
 (形而上學の心靈の根本的性質としての)……………上二五八七  
 (と運動)……………上二五八八  
 (とエネルギー)……………上二五八九  
 (と感情)……………上二五九〇  
 (の不滅)……………上二五九一  
 (無機的及び有機的)……………上二五九二  
 感覺及び刺戟感應の階段(第十五表)……………上二五九三  
 感覺界(Mundus sensibilis, カントの説き)……………上二五九四  
 感覺神經(の特殊エネルギー説, ミュラーの稱したる)……………上二五九五  
 感覺性(Empfindlichkeit)……………上二五九六  
 カント(Immanuel Kant, 個人的二元論者としての)……………上二五九七  
 (真理に就して)……………上二五九八

カント(純粹理性に就して)……………上二五九九  
 (人間の二重性質に就して)……………上二六〇〇  
 (の宇宙觀)……………上二六〇一  
 (の宇宙進化説)……………上二六〇二  
 (の人類學)……………上二六〇三  
 (の哲學)……………上二六〇四  
 (の天體の一般の歴史)……………上二六〇五  
 (の二元論)……………上二六〇六  
 (の批判)……………上二六〇七  
 (の批判哲學)……………上二六〇八  
 カント第一世……………上二六〇九  
 (純粹理性を有する無神論者)……………上二六一〇  
 (物理學者にして一元論者)……………上二六一一  
 第二表……………上二六一二  
 (形而上學者にして二元論者)……………上二六一三  
 (純粹非理性を有する有神論者)……………上二六一四  
 カントの二律背反(第二十表)……………上二六一五  
 幾何學的根柢形態(第六表)……………上二六一六  
 器官感覺(Organempfindung)……………上二六一七  
 器官子(Organelle)……………上二六一八  
 記述科學(Die Beschreibende Wissenschaft)……………上二六一九  
 キルヒマン(Gustav Kirchhoff, 記述科學に就して)……………上二六二〇

空間感覺(Rauminn)……………上二六二一  
 クレン(Hermann Kroll, 物質なる概念に就して)……………上二六二二  
 クロヤン(Die Diuromoen, の體制)……………上二六二三  
 經驗科學(Die empirische Wissenschaft)……………上二六二四  
 『啓示』(Offenbarungen)……………上二六二五  
 形而上學(Metaphysik)……………上二六二六  
 (の發達)……………上二六二七  
 (プラトンの)……………上二六二八  
 形態形成(の原因)……………上二六二九  
 形態學(Morphologie)……………上二六三〇  
 系統史(Stammesgeschichte, の基礎知識)……………上二六三一  
 (の任務)……………上二六三二  
 『系統的系統發生學』(Systematische Phylogenie, ヴァルンの著)……………上二六三三  
 系統的的生活力(Phyletische Lebenskraft)……………上二六三四  
 系統發生(Mechanik der Phylogenese, の機制)……………上二六三五  
 系統發生學(Phylogenie)……………上二六三六  
 (一的臆説)……………上二六三七  
 (風習の)……………上二六三八  
 ケルネル(H. Kerner, 生命に就して)……………上二六三九  
 結婚(Elie, と民法)……………上二六四〇

結婚(の聖式)…………… 上二〇一三  
 結晶(Die Krystalle, の生活)…………… 上六八  
 (の増殖)…………… 上六一八  
 結晶形成力の方向…………… 上三一四  
 後形質(Metaplasma)…………… 上二〇一三  
 (の構造)…………… 上二二四  
 膠質物(Colloidale Substanz)…………… 上六一二  
 後生動物(Die Metazoen, の筋肉運動)  
 ……………… 上二〇一  
 (の誕生)…………… 上二〇一  
 交接器(Begattungs-Organ)…………… 上二〇一  
 光線感覚(Lichtempfindung)…………… 上二〇一  
 (植物の)…………… 上二〇一  
 (フラスコの)…………… 上二〇一  
 (無機體の)…………… 上二〇一  
 コーネル(Karl Julius Kollmann, 侏儒民  
 族に就いて)…………… 上二〇一  
 『心』…………… 上二〇一  
 (Psyche, と物)…………… 上二〇一  
 個性の階段(形態學上の)…………… 上二〇一  
 個體(Individuen, 形而上的)…………… 上二〇一  
 (形態學上の)…………… 上二〇一  
 (系統的)…………… 上二〇一  
 (生理學上の)…………… 上二〇一  
 (部分的)…………… 上二〇一  
 個體發生(Ontogenese, の機制)…………… 上二〇一  
 コペルニクスの(Copernicus, の地球中

心説)…………… 上二〇一  
 (の宇宙系統説)…………… 上二〇一  
 コロンブスの(Columbus, の亞米利加發  
 見)…………… 上二〇一  
 『魂體』(Psyche)…………… 上二〇一  
 魂體崇拜(Animismus)…………… 上二〇一  
 根本形態(Grund-Formen, 交軸)  
 ……………… 上二〇一  
 (一形成の原因)…………… 上二〇一  
 (原生生物の)…………… 上二〇一  
 (左右相稱的)…………… 上二〇一  
 (左右相稱的射)…………… 上二〇一  
 (單軸)…………… 上二〇一  
 (動物植物の)…………… 上二〇一  
 (中央軸)…………… 上二〇一  
 (中央面)…………… 上二〇一  
 (ヒストンの)…………… 上二〇一  
 (ヒストンの)…………… 上二〇一  
 (非相稱)…………… 上二〇一  
 (放射虫の)…………… 上二〇一  
 (無軸)…………… 上二〇一  
 根本形態學(Promorphologie)…………… 上二〇一  
 國家(動物の)…………… 上二〇一  
 コッホ(Robert Koch, 殺菌法の動因  
 を作る)…………… 上二〇一

ガ行

ガストロニア説(Die Gastraea-Theorie)  
 ……………… 上二〇一  
 芽條(Der Spross)…………… 上二〇一  
 硝子膜物質(Cuticular Substanz)…………… 上二〇一  
 ガリレオ(Galilei, の宇宙系統説)…………… 上二〇一  
 儀式(Ceremonie, と崇拜)…………… 上二〇一  
 偶然(Zufall, と運命)…………… 上二〇一  
 ゲーテンベルグ(Gutenberg, の活版  
 術の發明)…………… 上二〇一  
 ゲーテ(Goethe, とメタモル)…………… 上二〇一  
 原形質(Protoplasma, と後形質)…………… 上二〇一  
 (の概念)…………… 上二〇一  
 原生(Archigonie, とサプロビオーゼ)  
 ……………… 上二〇一  
 (の臆説)…………… 上二〇一  
 (の階段)…………… 上二〇一  
 (の觀察)…………… 上二〇一  
 (の定理)…………… 上二〇一  
 (の二階段)…………… 上二〇一  
 (の反覆)…………… 上二〇一  
 原生生物(Protist, 活物寄生的)…………… 上二〇一  
 (の死と再生)…………… 上二〇一  
 (の水静力學的運動)…………… 上二〇一  
 (の鞭毛運動)…………… 上二〇一

原生生物(の分泌運動)…………… 上二〇一  
 原人(Nieder Wilde, と等)…………… 上二〇一  
 (Höhere Wilde, 高等)…………… 上二〇一  
 (即ち自然人、メーザーランの  
 分類せし)…………… 上二〇一  
 (Mittlere Wilde, 中等)…………… 上二〇一  
 現代人類學(Moderne Anthropologie)  
 ……………… 上二〇一  
 原發生(に關する實驗)…………… 上二〇一  
 悟性(Verstand, と理性)…………… 上二〇一  
 キヤ行  
 嗅覺(Geruchempfindung)…………… 上二〇一  
 舊活力説(Palaevitalismus)…………… 上二〇一  
 救済(に關する箇條)…………… 上二〇一  
 教育(合理的、科學的)の勢力増加す)  
 ……………… 上二〇一  
 教育學(Pädagogik, と訓育)…………… 上二〇一  
 共棲(Symbiose)…………… 上二〇一  
 教授(Unterricht, の改革)…………… 上二〇一  
 クア、クワ行  
 科學(Die Wissenschaft)…………… 上二〇一  
 (Rationelle Wissenschaft, 合  
 理的)…………… 上二〇一

サ行

科學(獨斷的科學)…………… 上二〇一  
 (の分類)…………… 上二〇一  
 化學(Chemie, の相關)…………… 上二〇一  
 化學作用(生活運動の)…………… 上二〇一  
 化學的走性(Chemotaxis)…………… 上二〇一  
 化體説(Transsubstantiation)…………… 上二〇一  
 (ツヴァインダリの)…………… 上二〇一  
 (ルーテルの)…………… 上二〇一  
 活物寄生(Parasitismus)…………… 上二〇一  
 活力説(Vitalismus)…………… 上二〇一  
 觀察(自然現象の)…………… 上二〇一  
 細菌(Bakterie)…………… 上二〇一  
 (と原生動物)…………… 上二〇一  
 (と菌類)…………… 上二〇一  
 (と分生藻)…………… 上二〇一  
 (とキノコ)…………… 上二〇一  
 (の細胞群落)…………… 上二〇一  
 (の種類の形態)…………… 上二〇一  
 再生(Regeneration)…………… 上二〇一  
 細胞(Die Zelle)…………… 上二〇一  
 (の概念)…………… 上二〇一  
 (Kernlose Zellen, 無核)…………… 上二〇一  
 細胞間物質(Intercellular-Substanz)…………… 上二〇一

細胞群落(Gelatin-Coenobien, ヌツタマ

ハ)…………… 上二〇一  
 (Sphäral-Coenobien, 球形)…………… 上二〇一  
 (Catena-Coenobien, 鎖狀)…………… 上二〇一  
 (Arboreal-Coenobien, 樹枝狀)…………… 上二〇一  
 細胞原質説(Idioplasm-Theorie, と  
 ヌツタマ)…………… 上二〇一  
 細胞質(Cytoplasma)…………… 上二〇一  
 細胞説(Die Zellentheorie, の建設)…………… 上二〇一  
 細胞獨斷説(Das Zellen-Dogma)  
 ……………… 上二〇一  
 細胞膜(Zellmembran)…………… 上二〇一  
 細胞連合(Zellveretne)…………… 上二〇一  
 サプロビオーゼ(Saprobiose)…………… 上二〇一  
 (に關する消滅的實驗)…………… 上二〇一  
 サラジン(Sarsain, の錫蘭のウツタマに  
 關する著作)…………… 上二〇一  
 三位一體(Trinität, 物質の)…………… 上二〇一  
 詩(Dichtung, と真理)…………… 上二〇一  
 死(Tod, 個體の)…………… 上二〇一  
 (原生動物の)…………… 上二〇一  
 (生と)…………… 上二〇一  
 (の圖)…………… 上二〇一  
 (の原因)…………… 上二〇一  
 (カヌーの)…………… 上二〇一

色素粒(Die Chromatophoren)……………上三六七  
『思考』(Denken)……………上三六  
刺戟(Reize, 化學的の)……………上三六  
(外部—内部)……………上三六  
(の傳達)……………上三六  
刺戟感應性(Reizbarkeit)……………上三六  
思想機關(Die Phroneten)……………上三六  
自然(Natur)……………上三六  
自然形態(Naturformen, の美)……………上三六  
『自然造化』(Natürliche Schöpfungsgeschichte, の著)……………上三六  
自然主義(Naturalismus)……………上三六  
自然科學(Naturwissenschaft, の新分科)……………上三六  
『自然科學の世紀』(Jahrhundert der Naturwissenschaft)……………上三六  
自然哲學(Die Naturphilosophie)……………上三六  
自然發生(Spontane Generation)……………上三六  
自然民族(Die Naturvölker, の心理學)……………上三六  
『自然民族の心理學』(Psychologie der Naturvölker, の著)……………上三六  
使徒の信條(Apostolisches Glaubensbekenntnis)……………上三六  
死物寄生(Saprositismus)……………上三六  
雌雄異體(Gonochorismus, 細胞の)……………上三六

雌雄異體の階段(第十二表)……………上三六  
雌雄形質(Sexual-Charaktere, 第二次的の)……………上三六  
雌雄淘汰(Schamgefühl, のウイムの)……………上三六  
雌雄同體(Hermaphroditismus, 細胞の)……………上三六  
(の形成)……………上三六  
雌雄同體の階段(第十一表)……………上三六  
シムルル(Schiller, の著)……………上三六  
『新オメガノン』(Novum Organon, の著)……………上三六  
神經の特殊エネルギー説(マラーの著)……………上三六  
『信仰』(Glaube)……………上三六  
進化(Anorgische Entwicklung, 無機的の)……………上三六  
(Organische Entwicklung, 有機的の)……………上三六  
進化論(Descendenz-Theorie)……………上三六  
(の建設)……………上三六  
新活力説(Neo vitalismus)……………上三六  
心身平衡論(Die Theorie Das Psychophysisches Parallelismus)……………上三六  
真理(Wahrheit, の宇宙の謎)……………上三六  
(の詩)……………上三六  
(の何れ)……………上三六

眞理の認識に對する兩徑路の相違(第一表)……………上三六  
心理的の一元論(Psychomonismus)……………上三六  
心靈(Seele)……………上三六  
(の位置)……………上三六  
疾病(Krankheit)……………上三六  
スーザランド(Alexander Sulherland, の歐洲の列強及び其の子孫)……………上三六  
(の人類の分類法)……………上三六  
崇拜(Cultus)……………上三六  
スコット(Scott, 化學上の突然變異に就して)……………上三六  
ストロフォネシス(Strophogenesis)……………上三六  
スパンザニ(Spallanzani, 滴虫類の發生に就して)……………上三六  
スバルタ式淘汰法(Spartanische Selection)……………上三六  
スモノザ(Spinoza, 一元論の代表者として)……………上三六  
正(Theose)……………上三六  
性(の分離)……………上三六  
性感覺(Eros)……………上三六  
生活物質の系統發生史(第四表)……………上三六  
生活力(Lebenskraft)……………上三六

聖餐(Abendmahl, の儀式)……………上三六  
聖式(Sacramente)……………上三六  
(の七種)……………上三六  
精子細胞(Spermazelle)……………上三六  
精神(Geist, の心靈)……………上三六  
(の系統發生)……………上三六  
(の古生物學)……………上三六  
(の胚生史)……………上三六  
(の發達)……………上三六  
精神界(Die Geisterwelt)……………上三六  
精神生活(Urbewusstes Geistesleben, 無意識的の)……………上三六  
(Bewusstes Geistesleben, 意識的の)……………上三六  
(自然人の)……………上三六  
(哺乳動物の)……………上三六  
(文化人の)……………上三六  
(文明人の)……………上三六  
(野蠻人の)……………上三六  
精神的の一元論(Psychomonismus)……………上三六  
精神的の一元論及び二元論(第十六表)……………上三六  
精神病(Geisteskrankheit)……………上三六  
精神力(Geisteskraft)……………上三六  
生殖(と生長)……………上三六  
生殖形態(の階段)……………上三六

生殖質(Koim plasma)……………上三六  
(の説)……………上三六  
生殖細胞輸送管(Geschlechtsleiter)……………上三六  
生殖作用(Sortpflanzung, の原生)……………上三六  
生長の限界……………上三六  
生の智識(Lebenskund, の分科)……………上三六  
『生の炎』(Lebens-Flamme)……………上三六  
生物學(Die Biologie, の主要領域)……………上三六  
(の概念)……………上三六  
生物學的自然哲學(Biologische Naturphilosophie)……………上三六  
生物學的認識論(Die biologische Erkenntnis Theorie)……………上三六  
生物學の最重要分科一覽(第三表)……………上三六  
生物發生學(Biogenetisches Grundgesetz, の根本法則)……………上三六  
(の根本法則の完全に行はるべき事)……………上三六  
生命(Das Leben, 永遠の)……………上三六  
(の維持)……………上三六  
(の機械説)……………上三六  
(の交替)……………上三六  
(の個人的評價)……………上三六

生命(の概念)……………上三六  
(の客觀的價值)……………上三六  
(の進化)……………上三六  
(人類の評價)……………上三六  
(の社會的評價)……………上三六  
(の主觀的價值)……………上三六  
(の單位)……………上三六  
(の目的)……………上三六  
(の歴史的目的)……………上三六  
(の歴史的目的)……………上三六  
(に關する問題の棄却)……………上三六  
生命の起原に關する學說の一覽(第十七表)……………上三六  
(の不可思議)……………上三六  
生命の形態(Lbensformen, 最も簡單なる)……………上三六  
生命の單位の階級(第九表)……………上三六  
生理學(Physiologie)……………上三六  
勢力學(Energetik)……………上三六  
世代交替(Generationswechsel)……………上三六  
世代交替の階段(第十三表)……………上三六  
染色質(Chromatin, と非染色質)……………上三六  
洗禮(Die Taufe, の聖式)……………上三六  
接觸作用(Katalyse)……………上三六  
組織(Gewebe)……………上三六  
(後生動物の)……………上三六



創造(に關する簡條)……………上七七一  
 相稱(Symmetrie-Gesetz, の法則)……………上七二四  
 走地性(Geotaxis)……………上七二四  
 走電氣性(Galvanotaxis, 原生生物の)……………上七二四  
 雜種の形成(Hybridismus)……………上七三三  
 『人類發生學』(Die Anthropogenie, ヴァウルの著)……………上七三三  
 人類學(Anthropologie)……………上七三三  
 人類(Die Menschennisse, の生命の價値)……………上七三三  
 自發運動(Autonomie Bewegung)……………上七三三  
 實在論(Relativismus, 唯心論)……………上七三三  
 自治權(の發展)……………上七三三  
 自生(Autogenie-Hypothese, の説)……………上七三三  
 自殺(Selbstmord)……………上七三三  
 自己分裂(Selbstheilung)……………上七三三  
 自己救済(Selbsterlösung)……………上七三三  
 ジーボルト(Siebold, 寄生虫に就して)……………上七三三  
 實驗(自然科学上の)……………上七三三

實踐的哲學(一元的の完成)……………上七三三  
 實踐的物唯論(Praktischer Materialismus)……………上七三三  
 (古代の)……………上七三三  
 『實踐理性』(Praktische Vernunft, カントの)……………上七三三  
 ゼーモン(Richard Semon, の「トネメ」)……………上七三三

社會學(Dynamische Sociologie, レスラー、ウォードの名にけたる動的)……………上七三三  
 宗教(Religion, と風習)……………上七三三  
 習慣(Gewohnheit)……………上七三三  
 『習慣は第二の天性なり』……………上七三三  
 シュタントフニス(Staufuss, 生存要約に就して)……………上七三三  
 出芽(Knosprung)……………上七三三  
 シュタット(Dr Heinrich Schmidt, 生物發生學的根本法則に就して)……………上七三三  
 シュライチン(Schleiden, 細胞説の創立者として)……………上七三三  
 シュルツェ(Fritz Schultze, カント及ビターマンに就して)……………上七三三

シュルツェ(進化心理學の特性に就いて)……………上七三三  
 シュワン(Schwan, 細胞に就して)……………上七三三  
 障碍發生(Die Caenogenesis)……………上七三三  
 象徴的有機體(Symbolische Organismen)……………上七三三  
 晶質物(Kristalloide Substanz)……………上七三三  
 ショーペンハウエル(Schopenhauer, の宇宙の定義)……………上七三三  
 (の厭世觀)……………上七三三  
 (の神學觀)……………上七三三  
 植物界及び動物界に於ける物質代謝作用の相反現象(第八表)……………上七三三  
 植物プラズマ(Protoplasma)……………上七三三  
 庶物崇拜(Fetichismus)……………上七三三

重學(Mechanik, 運動學としての)……………上七三三  
 純正(理論)科學の主流の二覽(第十一表)……………上七三三  
 純粹理性(Reine Vernunft)……………上七三三  
 (の價値)……………上七三三  
 『純粹理性の批判』(Kritik der reinen Vernunft, カントの著)……………上七三三  
 純正科學(Reine Wissenschaft)……………上七三三  
 受働運動(Passive Bewegung)……………上七三三

ザ行

シヤ行

ジヤ行

他愛の主義(Altruismus)……………上七三三  
 體制の階列(Stufen der Organisation)……………上七三三  
 體腔類(Coelomarian, の空氣呼吸)……………上七三三  
 (の呼吸器官)……………上七三三  
 (の水呼吸)……………上七三三  
 (の消化器官)……………上七三三  
 (の循環器官)……………上七三三  
 單性生殖(Monogonie)……………上七三三  
 (Parthenogenesis)……………上七三三  
 單性生殖の階段(第九表)……………上七三三  
 蛋白(Albumin)……………上七三三  
 蛋白分子……………上七三三  
 チェン(Cyan-Hypothese, の説)……………上七三三  
 チェン化合物……………上七三三  
 チェン酸(CNO H)……………上七三三  
 地球發生學(Geogenie)……………上七三三  
 地質學(Geologie)……………上七三三  
 (と系統發生學)……………上七三三  
 綱(Die Krasse, の生命の價値)……………上七三三  
 ツウィングリ(Zwingli, の化體説)……………上七三三

ツントツ(Zuntz, 心臓に關する研究)……………上七三三  
 適應(Anpassung, と變異)……………上七三三  
 テクトゲネシス(TECTOGENETISCHE Urogenie)……………上七三三  
 哲學的科學(Die philosophische Wissenschaft)……………上七三三  
 淘汰説(Selections-Theorie, ヌーワンの)……………上七三三  
 贖罪(Erlösungs-Wunder, の不可思議)……………上七三三  
 突然變異説(Mutations-Theorie)……………上七三三  
 トムソン(Wm-Thomson, の宇宙生物學説)……………上七三三

ダーウイン(Charles Darwin, 生命の起原の不可知論者として)……………上七三三  
 (電氣感覺に就して)……………上七三三  
 (本能に就して)……………上七三三  
 (の淘汰説)……………上七三三  
 ダーウイン説(Neodarwinismus, 新一)……………上七三三  
 (の眞の基礎)……………上七三三  
 ダ・ガマ(Vasco da Gama, の東印度發見)……………上七三三

彈性(Elasticität)……………上七三三  
 デーカルト(Descartes, 二元論の主張者として)……………上七三三  
 電氣感覺(Elektrische Empfindung)……………上七三三  
 ヴォンネー(B. von Denerf, の「同一論」(Identitätslehre))……………上七三三  
 『同一論』(Identitätslehre)……………上七三三  
 同化作用(Assimilation)……………上七三三  
 道德(Sittlichkeit, と風習)……………上七三三  
 『道德律』(Das Sittengesetz)……………上七三三  
 道德論(Die Sittenlehre)……………上七三三  
 動物學(Zoologie)……………上七三三  
 動物プラズマ(Protoplasma)……………上七三三  
 ドリーシ(Hans Driesch, 淘汰説を駁す)……………上七三三

中央體(Centrosoma)……………上七三三  
 中樞感覺器(Sensorium, ヌノキト)……………上七三三  
 聽覺(Schallempfindung)……………上七三三  
 腸管系統(Gastro-Canal-System, 海綿蟲の)……………上七三三  
 (腔腸動物の)……………上七三三  
 (扁形動物の)……………上七三三  
 超自然世界……………上七三三

タ行

タ行

チャ行

ツァ行  
ツァイグレル(Ernst Heinrich Ziegler, 本能の概念に就して)……………P.104  
ツェンネル(Ludwig Zehnder, 『生命の生成』)……………P.102  
ヂヤ行  
ダイクワニー(Dielis)……………P.102  
ダイツクニー(Dissogone, 複生殖)……………P.107  
ナ行  
二家(Diacete)……………P.110  
二元的宇宙觀(Zweheitliche Weltanschauung, 二元論)……………P.102  
二元的永遠の應説……………P.102  
二元的認識論(Dualistische Erkenntnis Theorie)……………P.102  
二元的倫理學(Dualistische Ethik)……………P.102  
二元哲學(カントの)……………P.102  
二元論(Dualismus)……………P.102  
二元論(宇宙學的)……………P.102  
(カントの)……………P.102

二元論(Dualistische Theorie, 精神活動の)……………P.104  
二元論より觀たる三位一體(第十九表)……………P.102  
二律背反(Antinomien, カントの)……………P.102  
認識(Die Erkenntnis, と脳髓)……………P.102  
ネーゲル(Carl Naegeli, 原生の階段に就して)……………P.102  
(ダーウィンの淘汰説を排斥す)……………P.102  
(の「進化論の機械生理説」)……………P.102  
熱感覺(Wärmempfindung)……………P.102  
念珠藻類(の生活現象)……………P.102  
能動的運動(Active Bewegung)……………P.102  
ノイマイスター(Neumeister, チャン説に反對す)……………P.102  
ノルダウ(Nax Jordan, 偽善と虚偽に就して)……………P.102  
(文化生活の暗黒面に就して)……………P.102  
ニヤ行  
ニートン(Newton, 『太陽中心説』)……………P.102

ハ行  
胚(の精神)……………P.101  
排活力説(Antitalismus)……………P.102  
排泄器官(Ausscheidungs-Organ)……………P.102  
波動發生説(Die Perigenesis, ヴァッナル)……………P.102  
ハルトマン(Eduard Hartmann, 超ハルキーの力に就して)……………P.102  
ハレル(Ahbrecht Haller, 有機的生命的二特性に就して)……………P.102  
反(Antithese)……………P.102  
反カント(Anti-Kant)……………P.102  
反應(Reaction, 刺戟に對する)……………P.102  
汎起説(Panogenesis, ダーウィンの)……………P.102  
半原人(Halbwilde, 野蠻人と同じ)……………P.102  
煩瑣哲學(衰々)……………P.102  
汎心論(Panpsychismus)……………P.102  
反射運動(Relaxive Bewegung)……………P.102  
發酵作用(Fermentation)……………P.102  
發生(Kosmogonie, 宇宙の)……………P.102  
(Biogenie, 生物の)……………P.102  
(Geogenie, 地球の)……………P.102  
(Entwicklungs-Mechanik, ……P.102)

『發生機制學雜誌』(Das, Archiv für Entwicklungs-Mechanik, ……P.102  
一の出版する雜誌)……………P.102  
發生學(Biogenie)……………P.102  
比較形態學(Vergleichende Morphologie)……………P.102  
ユク(Wilhelm His, 比較解剖學に就して)……………P.102  
ヒストナール(の分節)……………P.102  
ユストナール個體(Das Histonal Individuum)……………P.102  
(Histonen, の運動)……………P.102  
(の器官)……………P.102  
(の器官系統)……………P.102  
(の群體)……………P.102  
(の死と再生)……………P.102  
(の雌雄同體腺)……………P.102  
(の生殖腺)……………P.102  
非染色質(Achromatin)……………P.102  
『批判』(Kriticismus)……………P.102  
皮膚筋肉……………P.102  
ヒポダナク(Hypogenesis)……………P.102  
風習(Sitte, の適應)……………P.102  
(文化的)……………P.102  
(野蠻的)……………P.102  
風習問題……………P.102

不可思議(Wunder, と自然法)……………P.102  
不可思議の信仰(Wunderglaube, カン)……………P.102  
(現代政治の)……………P.102  
(現代神學に於ける)……………P.102  
(現代形而上學の)……………P.102  
(自然民族の)……………P.102  
(心靈論の)……………P.102  
(宗教の)……………P.102  
(哲學者問の)……………P.102  
(中世紀の)……………P.102  
(第十九世紀に於ける)……………P.102  
(文化民族の)……………P.102  
(文明民族の)……………P.102  
(プラトンの)……………P.102  
(野蠻民族の)……………P.102  
不可思議論(Agnosticismus)……………P.102  
(と生命の起源)……………P.102  
複合有機體(Zusammengesetzte Organismen)……………P.102  
不連続軸(Gleichpölig Kreuzaxige)……………P.102  
不滅の筒條(Der Unsterblichkeit-Artikel)……………P.102  
佛蘭西革命(一七九二年の)……………P.102  
フリース(Hugo de Vries, 突然變異説に就して)……………P.102

フロネフ(Phronema, の精神)……………P.102  
(の解剖)……………P.102  
(の系統發生)……………P.102  
(の個體發生)……………P.102  
(の生理學)……………P.102  
(の病理)……………P.102  
(ヘテロネア(Heterogenesis)……………P.102  
クラクライア(Herkunft, 生命を以て)……………P.102  
リント(Hering, 記憶に就して)……………P.102  
ストウヤウ(Oscar Hertwig, 生物發生學的根本法則を説く)……………P.102  
ヘルムホルツ(Helmholtz, の宇宙生物學に就して)……………P.102  
(生命の起源に就して)……………P.102  
變形論(Transformismus)……………P.102  
(Botanischer Transformismus, 植物學上の)……………P.102  
(Zoologischer Transformismus, 動物學上の)……………P.102  
法王權論(Ultramontanismus)……………P.102  
法王崇拜(Papismus, の聖式)……………P.102  
孢子(Sporen, の形成)……………P.102  
法律(Recht, の風習)……………P.102  
『法律學』(Rechtswissenschaft)……………P.102  
ハイモリス(Haeckerus, の植物發生



フイステル (Fistel, ツェーデルの命名せる)……………下二七  
 (Fisteler-Hypothese, 臆説)……………  
 ファイシャー (E. Fischer, 生存要約に就して)……………下二八〇  
 フェビネル (Theodor Fechner, 生命の永久性に就して)……………下二八一  
 フェルウォルン (Max Verworn, 原生動物の走電氣性に就して)……………下二八二  
 (生命を火炎に譬ふ)……………下二八三  
 (化学的走性に就して)……………下二八四  
 (の心理的一元論)……………下二八五  
 (ブリュエールのチャーン説を贊す)……………下二八六

マ行

マシヨラン (Maggellan, 世界を周遊して地球の球形なる事を證明す)……………下二八七  
 『魔物』(『Selenwesen』)……………下二八八  
 『オムトーン運動』(Myojhaen-Bewegung)……………下二八九  
 味覺 (Geschmacksempfindung)……………下二九〇

味覺 (植物の)……………下二七一  
 未細胞有機體 (Pricellular Organismus)……………下二七二  
 ミステリー (Mysterie, 聖式)……………下二七三  
 ミツヘルン (Mitsellen)……………下二七四  
 ミル (John Stuart Mill, 數學の根本概念に就して)……………下二七五  
 無機形態 (Anorganische Formen)……………下二七六  
 無機體 (Anorgane, の増殖)……………下二七七  
 無機物質 (Anorganische Stoffe)……………下二七八  
 無機物質 (Anorganische Stoffe)……………下二七九  
 無性生殖 (Ungeschlechtliche Fortpflanzung)……………下二八〇  
 無性世代 (Die ungeschlechtliche Generation)……………下二八一  
 無生物學 (Abiologie, Abiologie, 又は Anorgik)……………下二八二  
 無上命法 (Der kategorischer Imperativ, カントの)……………下二八三  
 名譽 (Ehre, と風習)……………下二八四  
 眼 (と視力)……………下二八五  
 メタジティスムス (Mensitismus)……………下二八六  
 メタメリー (Metamerie, 後生植物の)……………下二八七  
 『物其物』(Ding an sich)……………下二八八

モ行

モネラ (Monera, 疑問の)……………下二八九  
 (現時の)……………下三〇〇  
 『モネラの輪廓畫』(Monographie der Moneren, シュケルの著)……………下三〇一  
 モネラ説 (の結果)……………下三〇二  
 モノクローリー (Monoclinie)……………下三〇三  
 模倣 (Mimicry, 各種の昆蟲に依りて行はる)……………下三〇四

モラー (Johannes Müller, の學說)……………下三〇五  
 (生命力の特性に就して)……………下三〇六  
 (重學に就して)……………下三〇七  
 (Fritz Müller, 風習に就して)……………下三〇八

モヤ行

野蠻人 (Niedere Barbaren, 下等)……………下三〇九  
 (Höhere Barbaren, 高等)……………下三一〇  
 (Barbarvölker, 即ち半原人)……………下三一〇  
 (Mittlere Barbaren, 中等)……………下三一〇  
 有機形態 (Organische Formen)……………下三一〇

ヤ行

野蠻人 (Niedere Barbaren, 下等)……………下三〇九  
 (Höhere Barbaren, 高等)……………下三一〇  
 (Barbarvölker, 即ち半原人)……………下三一〇  
 (Mittlere Barbaren, 中等)……………下三一〇  
 有機形態 (Organische Formen)……………下三一〇

有機化合物 (Organische Verbindungen)……………下三一一  
 有機體 (Organismus)……………下三一二  
 (器官なき)……………下三一二  
 (と無機物)……………下三一二  
 有機體の形態學的系統 (第七表)……………下三一二  
 有機的生命の一元的及び二元的學說の相違 (第二表)……………下三一二  
 有機物質 (Organische Stoffe)……………下三一二  
 有性生殖 (Geschlechtliche Fortpflanzung)……………下三一二  
 有性世代 (Die geschlechtliche Generation)……………下三一二  
 有組織植物 (活物寄生的)……………下三一二  
 (の運動)……………下三一二  
 有組織動物 (活物寄生的)……………下三一二  
 (の運動)……………下三一二  
 唯心論 (Idealismus)……………下三一二  
 唯物論 (Materialismus)……………下三一二  
 (實際的)……………下三一二  
 (理論的)……………下三一二  
 超越節 (Passchfeste)……………下三一二  
 (の起原)……………下三一二  
 『輿論』(Öffentliche Meinung)……………下三一二

ラ行

ライプニッツ (Leibniz, の樂天主義)……………下三一二  
 ラインケ (Reinke, 生活運動に就して)……………下三一二  
 (種の生成に就して)……………下三一二  
 (の見神的一元論)……………下三一二  
 樂天觀 (Optimismus)……………下三一二  
 樂天主義 (Optimismus)……………下三一二  
 ラマルク (Lamarck, 遺傳に就して)……………下三一二  
 (の進化論)……………下三一二  
 (本能に就して)……………下三一二  
 ラマルク説 (Neolamarckismus, 新)……………下三一二  
 ラプラス (Laplace)……………下三一二  
 (の天體機制)……………下三一二  
 (の天體重學)……………下三一二  
 ラング (Arnold Lang, 有組織動物の運動に就して)……………下三一二  
 卵細胞 (Eizelle)……………下三一二  
 『力學說』(Kraftstoff)……………下三一二  
 利己主義 (Egoismus, 自然的)……………下三一二  
 理學 (Physik)……………下三一二  
 理智世界 (Mundus intelligibilis, カントの説から)……………下三一二  
 リゾモネラ (Rhizomoneten)……………下三一二  
 リヒター (Herman E. Richter, の生命)

起原の臆説)……………下三一二  
 理論的唯物論 (Theoretischer Materialismus)……………下三一二  
 リンネ (Linné, 感覺に就して)……………下三一二  
 ルー (Wilhelm Roux, 遺傳に就して)……………下三一二  
 ルークレテウス (Lucretius, 一元論の代表者として)……………下三一二  
 ルーテル (Martin Luther, 生命の起原に就して)……………下三一二  
 (洗禮に就して)……………下三一二  
 (の宗教改革)……………下三一二  
 『靈化作用』(Beselung)……………下三一二  
 レーネ (Francesco Redi, 動物の發生に就して)……………下三一二  
 レーウエンフック (Leeuwenhoek, 蟲類の發生に就して)……………下三一二  
 歴史哲學 (Geschichtsphilosophie)……………下三一二  
 歴史と傳説……………下三一二  
 老衰 (Alterschwäche)……………下三一二  
 ロイカルト (Leuckart, 寄生蟲に就して)……………下三一二  
 ロマネス (Romanes, 本能に就して)……………下三一二

リヤ行

流行 (Mode, 現時の)……………下三一二

流行(と雌雄淘汰)……………下二七〇—  
 (と産恥感)……………下二七一  
 (と風習)……………下二七二—七三  
 (と理性)……………下二七三—三  
 『流行猿』(Mode-Affe)……………下二七〇  
 兩カント(Die beiden Kante)……………下二九六—八  
 兩性生殖(Amphigonie)……………上三九七—八  
 兩性生殖の階段(第十表)……………上三九七—三〇

ワ、ウ、ア行

ウアーゲン(Wagen, 化石學上の突然  
 變異に就して)……………下二八六  
 ウアイスマン(August Weismann, 漸  
 進的遺傳に就して)……………下二九二  
 (突然變異に就して)……………下二九三  
 (ダーウイン説に確乎たる證據  
 を與ふ)……………下二七一—二  
 (の生殖質説)……………下二七五—七  
 ウイガント(Wigand, 種の生成に對  
 する假定)……………下二八二  
 ウイルヒョウ(Rudolf Virchow, 寄生  
 蟲に就して)……………下二四五  
 (科學に就して)……………上三七—八  
 (生命起原の不可知論者とし  
 ての)……………下二七  
 (人類學研究者としての)……………下二九八—〇

ウエスターマルク(Westernmark, 婚姻  
 に就して)……………下二二二  
 ウォレス(Alfred Wallace, 社會的組  
 織に就して)……………下二四六

ヴァ行

ヴァント(Wundt, の心身平衡論)……………下二二九

索引終

(植木製本)

大正四年二月十一日印刷  
 大正四年二月十五日發行

大日本文明協會第三期刊行書  
 生命の不可思議 下卷

編輯兼發行者 大日本文明協會

右代表者 大鳥居 奔三

東京市麹町區元園町一丁目二十二番地

印刷者 山下 注連 雄

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舎 第一工場

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地



品 要 非

發行所

東京市麹町區元園町一丁目二十二番地

大日本文明協會事務所

電話番町三五四二番  
 振替口座東京二一八九〇番

### 員議評會本

法	早	文	工	工	法	醫	工	法	文	文	法	理	慶	慶	東	法	農	理	文
學	稻	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	應	應	京	學	法	學	學
博	田	博	博	博	博	博	博	博	博	博	博	博	義	義	高	博	學	博	博
士	大	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	熟	熟	師	士	士	士	士
	學												教	教	校				
	授												授	授	長				
	士																		
關	志	三	阪	淺	天	青	真	浮	上	坪	高	橫	川	鎌	嘉	和	新	石	井
	賀	宅	田	野	野	山	野	田	田	內	田	山	合	田	納	田	渡	川	上
	雄											又			治	垣	戶	千	哲
	重	一	貞	應	爲	胤	文	和	萬	雄	早	次	貞	榮	五	謙	稻	代	次
	一	郎	一	輔	之	通	二	民	年	藏	苗	郎	一	吉	郎	三	造	松	郎

## 大日本文明協會役員

會長

伯爵 大隈重信

編輯長

法學博士 浮田和民

事業監督

市島謙吉

理事

大鳥居弁三  
杉山重義

終

